

硬膜外麻酔による無痛分娩に関する説明

私は、診療内容、検査結果などにより.....様に硬膜外麻酔の有用性、方法、合併症などについて、以下の通りに説明しました。

1. 病名 (無し [経膈分娩]))
2. 手技名 (硬膜外麻酔による無痛分娩))
3. 麻酔 (硬膜外麻酔))
4. 硬膜外麻酔による無痛分娩の有用性とその手技ならびに無痛分娩をしなかった場合に予想される結果：硬膜外麻酔による無痛分娩の有用性は、妊婦の疼痛緩和が得られるだけでなく、落ち着いて家族とお産に臨める事、また産後の回復が早く、スムーズに育児に入れる事が挙げられます。麻酔の手技の詳細については「母となるあなたに」を読まれるか、または両親学級(4回目)に出席してビデオをご覧ください。なお、当科における分娩時の硬膜外麻酔はすべて産科医が行っております。麻酔薬が硬膜を浸透する程度と速度には個人差があり、硬膜外麻酔の有効率は85%程度とされています。また、硬膜外麻酔の開始により陣痛が弱くなる方もいます。一方、当院では局所麻酔薬ロピバカインと合成鎮痛麻薬フェンタニルを使用する方法を選択しています。硬膜外麻酔で無痛分娩をした際、新生児の血中に麻酔薬は認められるものの、新生児の神経行動には何ら影響を与えないと一般的に考えられています。尚、無痛分娩をしなかった場合は、上記有用性が得られなくなる可能性が高くなります。
5. 適応と起こり得る合併症ならびに危険性

[硬膜外麻酔による無痛分娩に適していない方]：①上記の麻酔薬や鎮痛薬にアレルギーのある方
②出血中の方や極度の脱水のある方(硬膜外麻酔による低血圧が重度となり、ショックや胎児ジストレスを起こす危険がある) ③血液の凝固・止血に異常のある方(硬膜外腔に出血し硬膜外血腫を形成しやすい) ④全身及び刺入部局所に感染のある方(髄膜炎や硬膜外膿瘍を生じる危険がある) ⑤ある種の心臓疾患や脊髄の病気を持つ方(坐骨神経痛や椎間板ヘルニアは、硬膜外麻酔自体がこれらの症状を悪化させる危険は極めて低いので、硬膜外麻酔の禁忌とはされていません)

[硬膜外無痛分娩の合併症・副作用]：①刺入部位(背中)の痛みが30~40%の方にみられます。②麻酔薬注入後の一時的低血圧は約20%の方にみられます。体位変換、輸液にて回復します。同時に児心拍も軽度低下することがあります。③硬膜穿刺後の頭痛は約1%の方にみられます。④非常に稀な合併症としては以下のような疾患があります。(ア)局麻剤投与後の一過性のふるえ、頭痛、吐き気(イ)局麻剤の急性中毒(過量投与、長時間投与による局麻剤の蓄積)(ウ)硬膜外血腫、硬膜外膿瘍、一過性の感覚異常(10,000例あたり5~42.3)(エ)局所麻酔薬のくも膜下誤注入(呼吸困難、血圧低下など)(オ)カテーテルの破損による体内遺残(一般的にはそのまま体内に残しても問題はない)⑤硬膜外麻酔による無痛分娩後の一過性の感覚神経障害については、分娩出産そのものが原因で生じている場合も多く、局所麻酔薬そのものが原因であるとは考えにくいとされています。

6. 分娩後のスケジュール：分娩後は、早期の離床を目指し、順調な回復と産後合併症の回避を目指す治療を実施します。

以上のことを、口頭・診療録・図示・画像・超音波断層写真等により説明しました。すべての質問にも回答いたしました。

東京衛生アドベンチスト病院 産婦人科医 _____ 看護師氏名 _____

同意書

私は、現在の症状、および硬膜外麻酔・検査などの必要性とその内容、またこれに伴う危険性などについて十分な説明を受け理解しました。硬膜外麻酔の実施を承諾します。また実施中に緊急の処置を行う場合には、適宜 処置されることについても承諾します。

患者氏名 (署名) 見本

同意者氏名 (署名) 見本

東京衛生アドベンチスト病院病院長殿

(患者との続柄 _____)